

平成23年8月1日

水源環境保全・再生かながわ県民会議  
座長 堀場 勇夫 殿

情報提供等ワーキンググループ  
リーダー 柳川 三郎

### 「効果的な情報提供等のあり方」の検討結果の中間報告

平成23年5月30日に設置された情報提供等ワーキンググループの検討状況について、次のとおり報告いたします。

## 1 検討の経過と予定

第1回検討会	6月20日	課題の洗い出し
第2回検討会	7月25日	情報提供等における県民会議と県の役割に関する検討等
中間報告	8月1日	県民会議に報告
第3回検討会	9月	最終報告の取りまとめ
最終報告	10月	最終報告の提出

## 2 検討内容

### (1) 第1回検討会

県民フォーラム、ニュースレター等、現在県民会議が行っている情報提供等の活動における課題等について、議論を行った。(別紙1)

### (2) 第2回検討会

情報提供等における県民会議と県の役割分担及び県民フォーラム、ニュースレター等の改善策について、議論を行った。(別紙2)

## 3 最終報告に向けての進め方

各委員から出された意見・提案を踏まえ、次のような視点から、情報提供等の今後の方向性を検討する。

- ・費用対効果（事業効果、予算額）
- ・実現可能性（県民会議委員と事務局で実施できるか）等

水源環境保全・再生かながわ県民会議  
情報提供等ワーキンググループ出席者

区 分	氏 名	第 1 回 (6/20)	第 2 回 (7/25)	備 考
公 募	柳川 三郎	○	○	リーダー
有識者	萩原 なつ子	—	○	リーダーからの 出席依頼
関係団体	倉橋 満知子	○	○	メンバー
公 募	井伊 秀博	○	○	〃
〃	北村 多津一	○	—	〃
〃	木下 奈穂	○	○	〃
〃	久保 重明	○	○	〃
〃	小林 信雄	○	○	〃
〃	高橋 弘二	○	—	〃

## 情報提供等WG第1回検討会結果概要（平成23年6月20日）

## ＜情報提供等に係る課題等について＞

\*斜体は、県民会議懇談会（2/16）におけるアンケートでの意見

## 1 県民フォーラム

## (1) 開催形式（プログラム）

- ・フォーラムでの意見を施策に反映させる。
- ・実施したフォーラムについては、自己評価を行う。
- ・企画を検討する時間を十分に確保（最低半年）する。
- ・年度当初にどのようなテーマで実施するのか、チームで相談する。
- ・事業の報告形式から参加者とのディスカッション形式に変えてみる。
- ・フォーラムで毎回出てくる意見、質問について、あらかじめ説明する。
- ・*新たな課題（森林とシカ）*についてプログラムに位置づける。

## (2) 開催回数

- ・年間2～3回の開催が必要である。
- ・回数を減らして内容を充実する。

## (3) 参加者の確保

- ・ターゲットにする年齢層を明確化し、情報提供する。

## (4) フォーラムチーム

- ・年初に開催時期、担当者を決定する。

## 2 事業モニター（結果の情報提供等）

- ・しずくちゃん便り以外での情報提供について検討する。
- ・市町村は進捗状況を広報紙やホームページで広報する。
- ・一般県民モニター（現地見学会）については、今後、県民会議の関わり方を検討する。
- ・一般県民モニター（現地見学会）は休日に実施し、回数を増やす。

### 3 ニュースレター「しずくちゃん便り」

- ・読者の対象をもっと明確化し、それに合わせて配布先を選定する。
- ・デザインのリニューアルについて、さらに検討する。
- ・紙面づくりを含め、さらにわかりやすい内容とする。
- ・配布方法については、区民会館など、市にもっと協力を求める。
- ・町内会にお願いするなど、末端まで届くような方策が必要である。
- ・県の肩書きのある配布ルートをつくる。

### 4 情報提供全般

#### (1) 基本事項

- ・情報提供のねらい、主たる対象などの基本事項を明確化する。

#### (2) メディアの活用

- ・メディア（特にNHKや朝日新聞）に取り上げてもらえるような方策について検討する。
- ・ホームページへのアクセス件数を増やす方策について検討する。

#### (3) 外部の専門家との連携

- ・情報専門家、業者との連携

#### (4) 情報提供の体系化

- ・各情報ニーズに適合した効果的な情報発信体系を確立する。

#### (5) 学校での普及啓発

- ・広報用DVDを積極的に活用する。
- ・若年層向けのDVDを作成する。

### 5 県民意見の集約

#### (1) メディアの活用

- ・インターネット、放送メディア、広報誌等の活用
- ・ツイッターの活用

#### (2) その他

- ・納税者を対象にPR効果も兼ねたアンケート調査を実施

(以上)

## 情報提供等WG第2回検討会結果概要（平成23年7月25日）

## 1 情報提供等における県民会議と県の役割分担

情報提供等のあり方を検討するにあたり、県民会議委員（主に公募委員、以下同様）は情報提供等の活動にどこまで関わるべきかという観点から、議論を行った。

## (1) 議論のポイント

- ・情報提供等は、県民会議の重要な活動であるが、県民会議委員は施策への意見提出にもっと重点を置くべきではないか。
- ・情報提供等の活動にあたり、県民会議委員に相当な負担がかかっているのではないか。
- ・事業モニターの充実強化等に伴う県民会議委員の負担増を考慮し、県民フォーラムや「しずくちゃん便り」については、県民会議委員が企画への参加や意見を述べる機会を確保の上、尊重していくこととし、業務を県に移管してはどうか。
- ・県民への情報提供等については、県民会議と県の事業で重複する部分があることから、役割分担の再整理が必要ではないか。

## (2) 議論の結果

- ・県民会議委員の施策への意見提出については、現行のやり方でも十分意見を述べる機会があるという意見と、施策への意見提出にもっと重点を置くべきという両方の意見が出された。
- ・情報提供等の活動にあたり、県民会議委員の負担を軽減すべきという意見は出されなかった。
- ・事業モニターの充実強化や情報提供等の改善策の実施等に伴う県民会議委員の役割分担の見直しについては、これらの内容が具体化した時点で検討することとした。

## 2 改善策の検討

県民フォーラムとニュースレター「しずくちゃん便り」の改善策を中心に検討を行い、主な意見は次のとおりである。

今後は、第1回、第2回検討会の内容を踏まえ、具体的な改善策を詰めていくこととする。

## (1) 県民フォーラム

- ・集客のためには、日時、開催場所、対象の明確化、予算額が重要である、その際、テーマは、これまで関心のない人たちに興味を持ってもらうため、広くとった方がよい。

- ・講演者やパネリストなどは、専門家ばかりでは内容が専門的になってしまうため、作家など他の分野から選ぶことも考える。
- ・準備期間としては、最低半年は必要である。
- ・広報の重要性を考え、委員は関係市町村、郵便局、図書館、駅等へフォーラムのお知らせチラシの配架を推進していたが、結果は厳しい状況で集客増にならなかった。今後の広報の手段としては、新聞広告は集客力が高いので掲載可能な方法を検討していくべきである。また、ツイッターも効果がある。
- ・駅での広報については、駅との協働事業によるポスターの掲示なども考えられる。
- ・初めての人たちに来てもらうことは大事であり、それには託児所が必須である。
- ・ミニフォーラムの手法として、駅の構内や図書館などで県民会議委員が説明する「カフェ」方式も考えられる。

## (2) ニュースレター「しずくちゃん便り」

- ・学生レポーター・市民記者等を公募するなど、いままで関わってこなかった人たちをプロセスの中に取り込むことで、内容に広がりや深みを持たせる。
- ・デザインや紙面の公募を行う。
- ・プロボノ（各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動）を取り入れる。
- ・現在 4,800 部発行の総部数の増加が必要である。

## (3) その他

- ・広報用のDVDを積極的に活用して県民へ知らせる。

(以上)